

令和7年度
みなかみ町地域福祉アンケート調査結果報告書

1. 調査の目的

本調査は、みなかみ町社会福祉協議会が実施する「生活困窮者支援等のための地域づくり事業」の一環として、地域住民の生活状況や福祉ニーズ、地域課題等を把握し、今後の地域福祉施策の推進及び体制整備に資する基礎資料を得ることを目的として実施した。

2. 調査の概要

実施主体：社会福祉法人みなかみ町社会福祉協議会

対象者：町内在住の20歳以上の住民（無作為抽出）500名

実施方法：郵送配布・郵送回収

実施期間：令和7年12月

3. 回収結果

配布数：500件

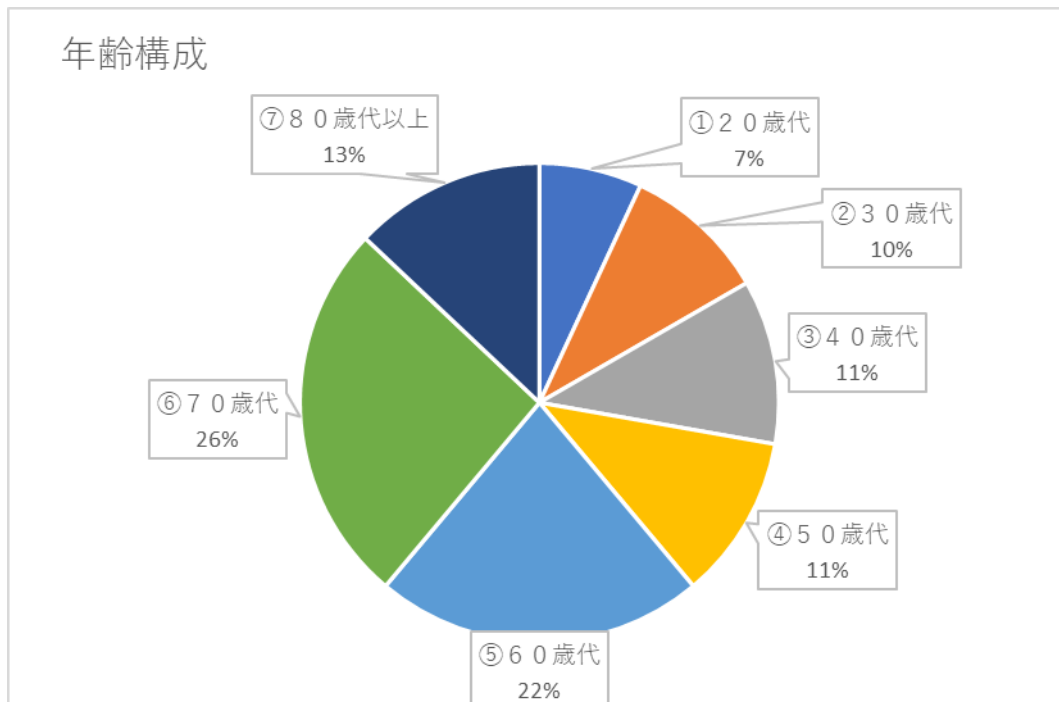
回収数：217件

回収率：43.4%

4. 回答者の属性

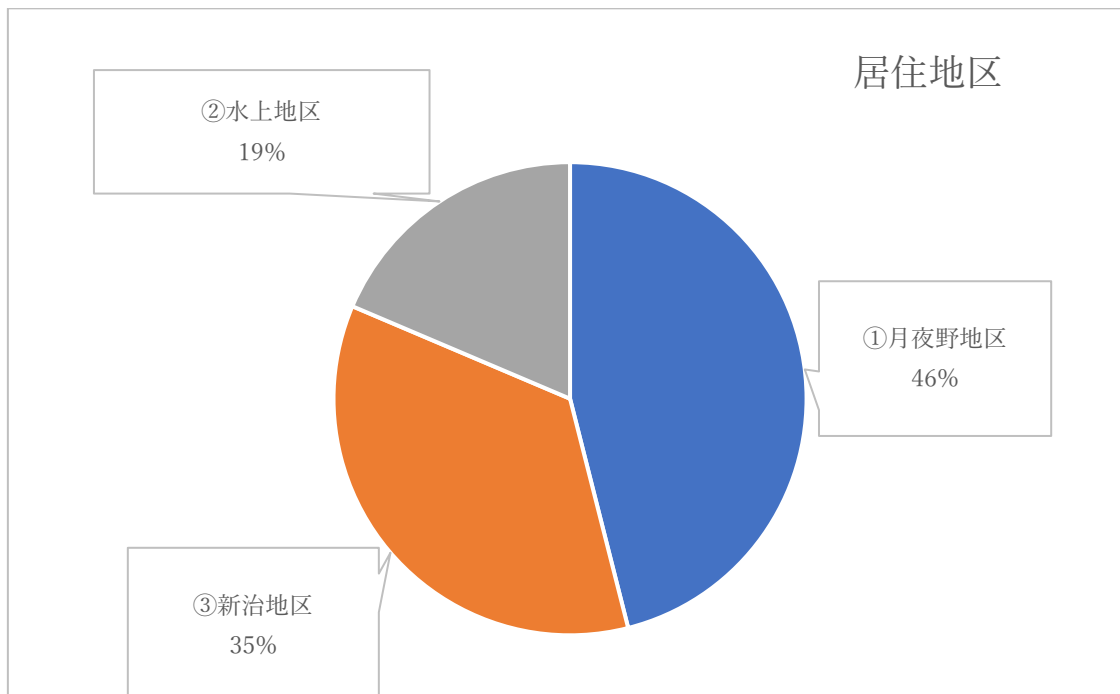
(1) 年齢構成

70歳代が最も多く、次いで60歳代となっている。80歳代以上を含め高齢層（60歳以上）が全体の61%を占めている。



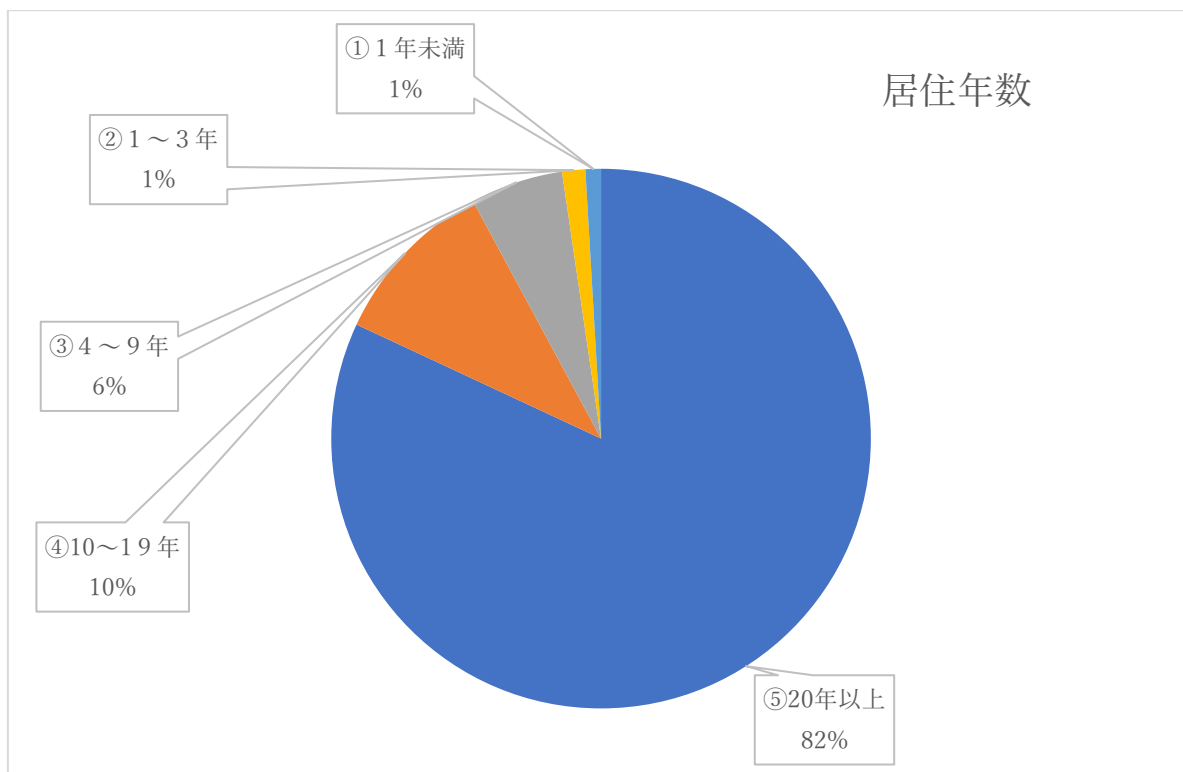
(2) 居住地区

各地区の回答割合は、月夜野地区 46%、新治地区 35%、水上地区 18%となっている。



(3) 居住年数

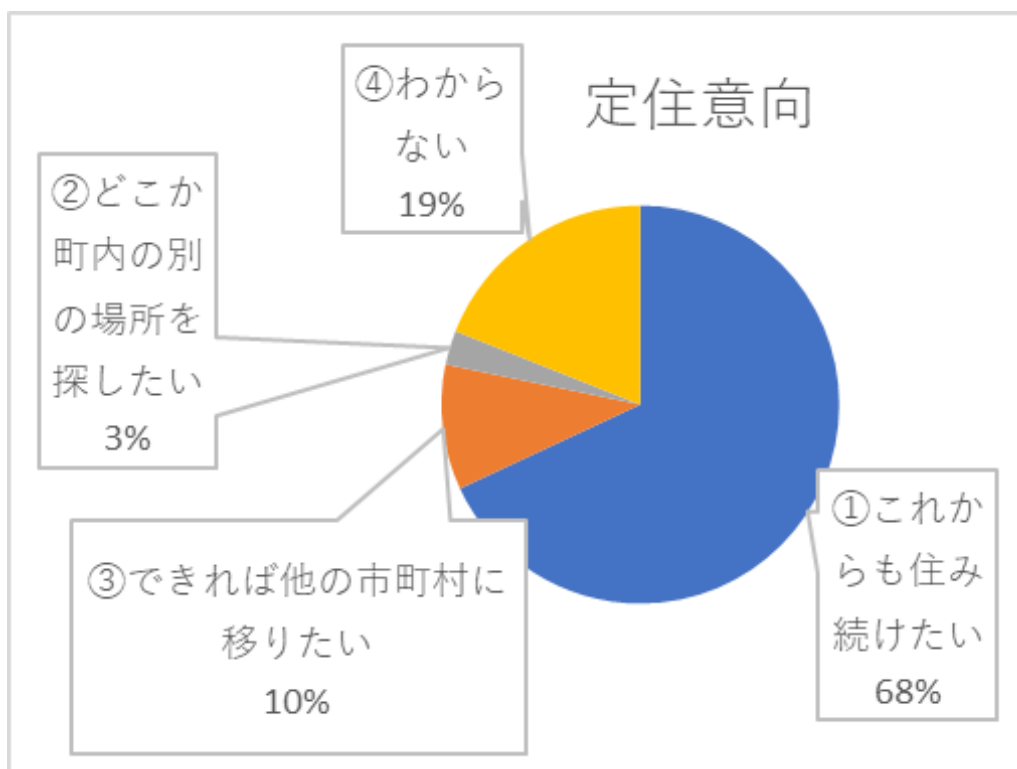
「20年以上」が82%と最も多く、長期居住者が多数を占めている。



5. 調査結果

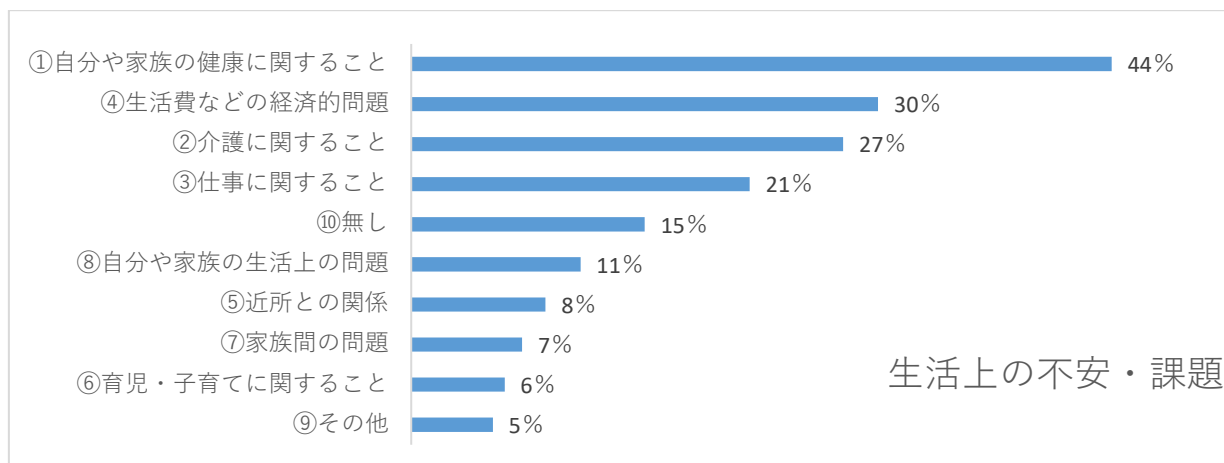
(1) 定住意向～これからもみなかみ町に住み続けたいと思いますか～

「今後も住み続けたい」と回答した割合は 68%となっており、地域への定住意識は高い傾向にある。



(2) 生活上の不安・課題～毎日の暮らしの中で、次のような悩みや不安を感じていますか(あてはまるものすべてに○)

「健康に関すること」「経済的問題」「介護に関すること」の回答割合が高く、特に高齢化に伴う生活不安が顕著である。

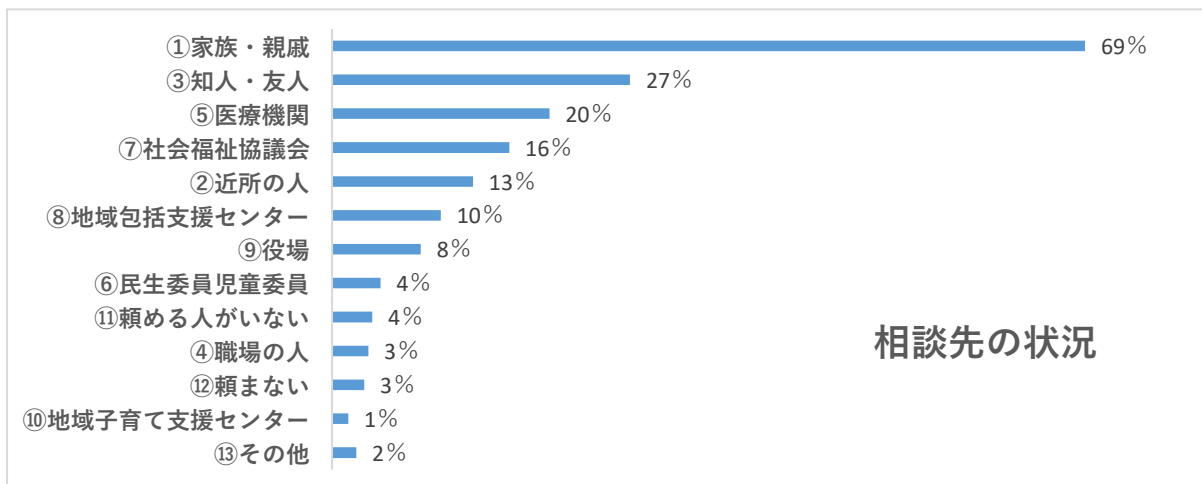


その他の回答は以下のとおりです。

- ・ 老後
- ・ 子どもが独身なので将来が心配
- ・ 交通の便が悪い。病院がなくなる不安。住民の減少と外国人の増加。熊等の増加、草刈りなど整備、除雪、買物、不便。
- ・ 運転ができなくなったら困る
- ・ 雪が多いので自分一人になったらどうしようかと
- ・ 老後について
- ・ 積雪が多いので、高齢になって除雪ができなくなってしまうこと
- ・ 年と共に（老い）心配事ばかり、身体も心も、除雪は特に困難で、二人とも、持病と足、腰も（病院）で除雪車も家、店の入り口に山で、晩の少しの時間に凍って切ないです。いくらお願いしても毎年同じです。
- ・ 冬期の除雪が年齢とともに、大変になってくること。
- ・ 最近熊の目撃が多く家の近くの柿の木にも熊が来て①いる。このまま住み続けたいが熊が心配。柿の木の伐採の啓発活動をお願いしたい。
- ・ 熊問題
- ・ 90代親の運転を辞めてもらいたいが、分かってもらえない。
- ・ 除雪作業

(3) 相談先の状況～相談や助けが必要なとき、誰に頼みたいですか（あてはまるものすべてに○）

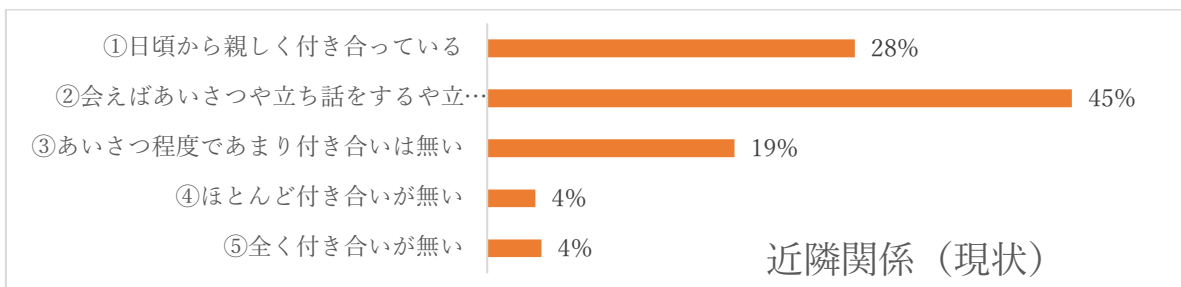
「家族・親族」「知人・友人」への依存が高い一方で、「頼める人がいない」「頼まない」とする回答も一定数存在しており、潜在的な孤立の可能性が示唆される。



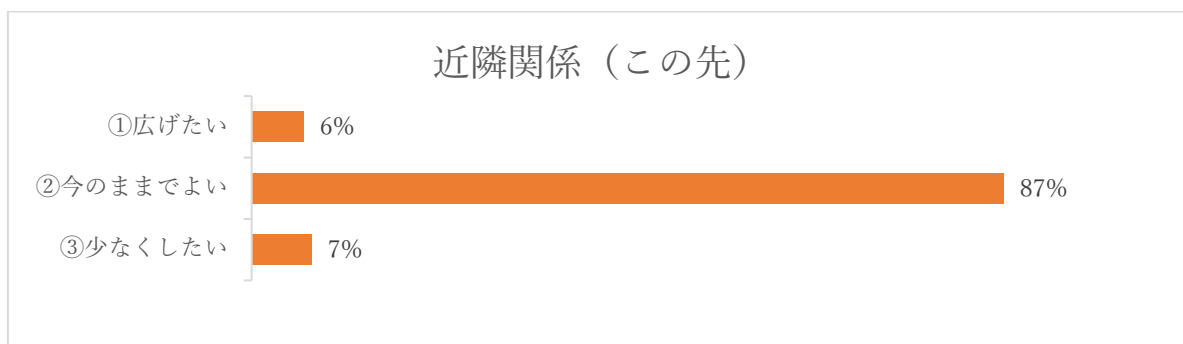
その他の回答は以下のとおりです。

- ・発達障害支援センター
- ・物事による
- ・近所の人 皆年なので（若い）
- ・切羽詰まった時は専門の相談員？地元の民生委員さんには逆に頼まないというか、近くの人にプライベートなことは話したくない。
- ・利用しているデイサービスなど

(4) 近隣関係（現状）～近所の人と普段、どのような付き合いをしていますか
「挨拶や立ち話程度」の関係が最も多く、顔見知りの関係がつけられていることがうかがえる。

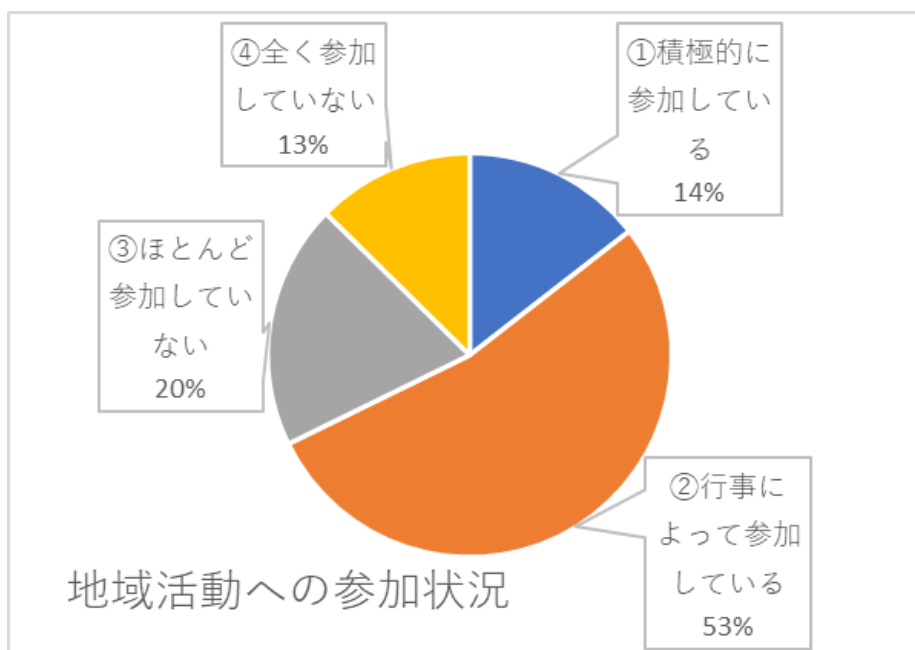


(5) 近隣関係（この先）から近所の人と今後どの程度の付き合いをしていきたいと思いませんか



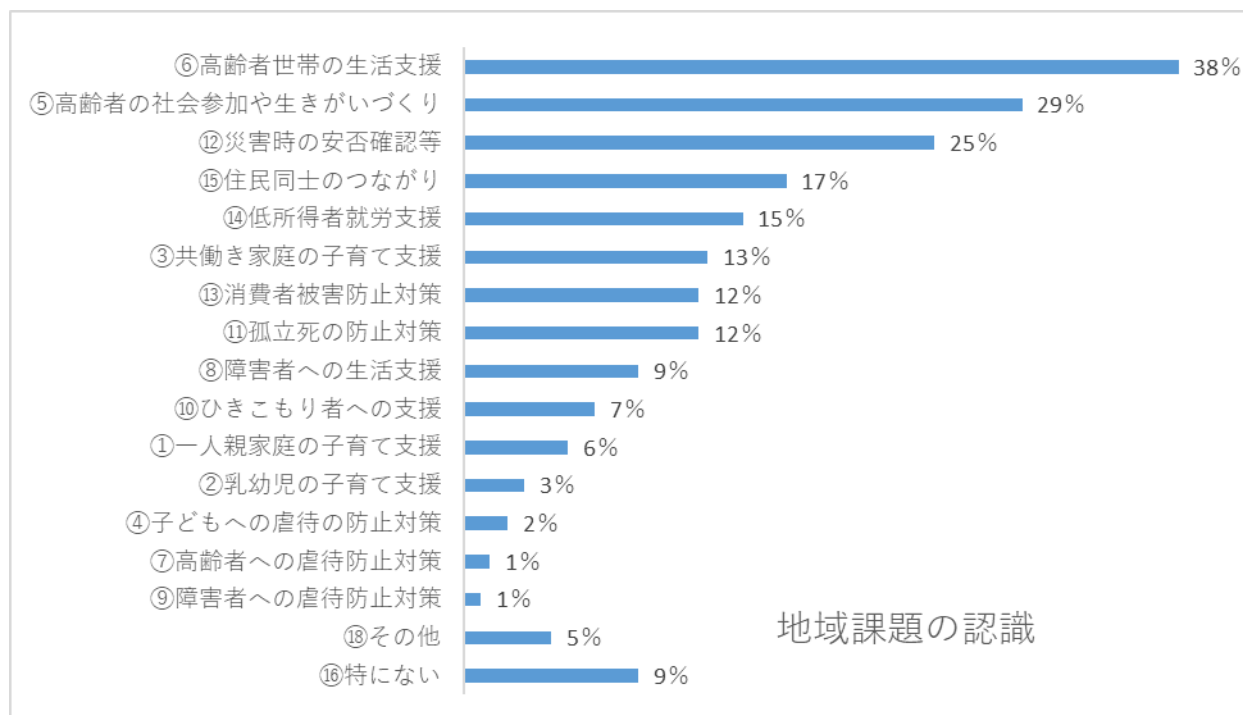
(6) 地域活動への参加状況

「積極的に参加」及び「一部参加」を合わせて 67%となる一方、「ほとんど参加していない」「全く参加していない」層も一定割合存在する。



(7) 地域課題の認識～あなたの地域にはどのような課題があると思いますか。(あてはまるものすべてに○)

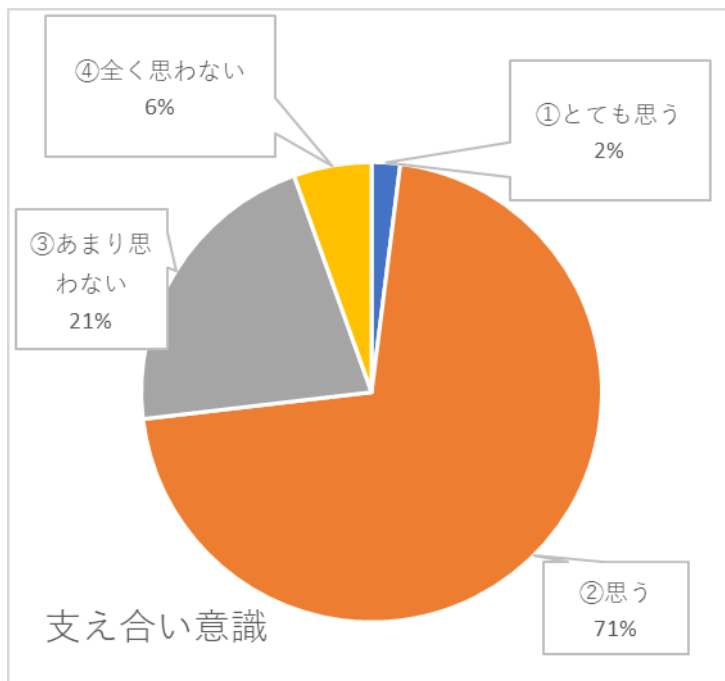
「高齢者の生活支援」、「高齢者の社会参加や生きがいづくり」をあげる人が多くいる。「災害時の安否確認」、「住民同士のつながり」をあげる人も15%を超えている。



その他の回答は以下のとおりです。

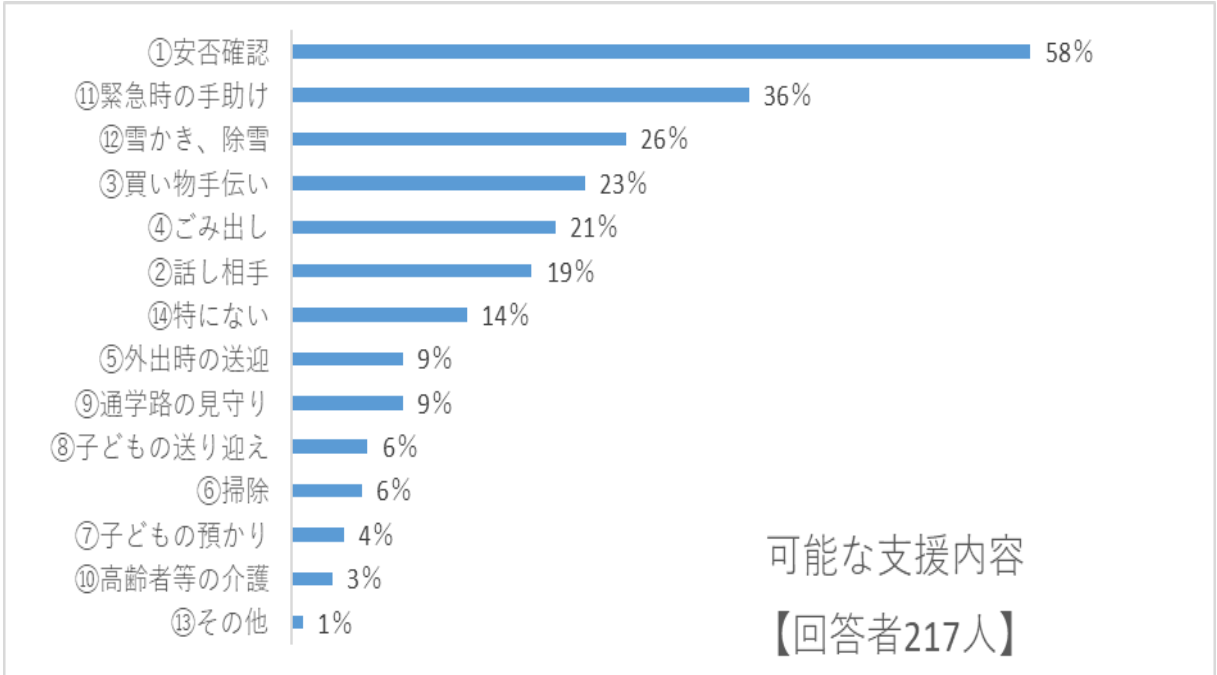
- ・空き家対策、倒壊仕掛けの家が多い
- ・高齢者の一人暮らし、空き屋等
- ・高齢化や人口減少で上記支援も継続できるのかが問題
- ・課題が全部当てはまりますが、お世話になる側に入りますので、老いが悔しいですが、老いが悔しいですが、気持ちは明日に何って何かないと常に思っていますが・・・？
- ・嫌がらせをする、隣人がいるなんとかしてほしい。
- ・子どもが少ないので婚活支援が必要だと思う。
- ・すべてが大事な課題だと思います。年齢層によっても答えが違うでしょうし難しい問題です。
- ・若者の流出。熊による被害。
- ・若い人が住める町づくり

(8) 支え合い意識～地域で困りごとを抱えている人に支援をしたいと思いますか
「支援したい」とする回答（「とても思う」「思う」の合計）は 73%であり、地域における
支え合いの意識は強いことが認められる。



(9) 可能な支援内容～隣近所で、高齢者や障害のある人の介護・介助や子育てなどで困っている場合あなたはどのような支援活動（手助け）ができると思いますか

「安否確認」が半数を超え、「話し相手」「買い物支援」「ごみ出し」など、日常生活に密着した支援が多く挙げられている。



その他の回答は以下のとおりです。

- ・店が大変でできない。
- ・分からない

(9) 災害など緊急事態が発生した場合、近所の人で手助けをしないと避難できないと思われる人はいますか。

「いる」31%、「いない」38%と 7 割の人は近所の状況を把握されている一方、30%は「わからない」と回答しています。

項目	回答	構成比
①いる	68人	31%
②いない	83人	38%
③わからない	65人	30%

(11) ボランティア活動の種類～ボランティア活動などであなたができそうなこと(ちょっとしたお手伝いも含む)を教えてください(あてはまるものすべてに○)

「災害時などの助け合い」や「話し相手」、「掃除片付け」を多くの人が回答しているほか、多くの活動に回答がある。

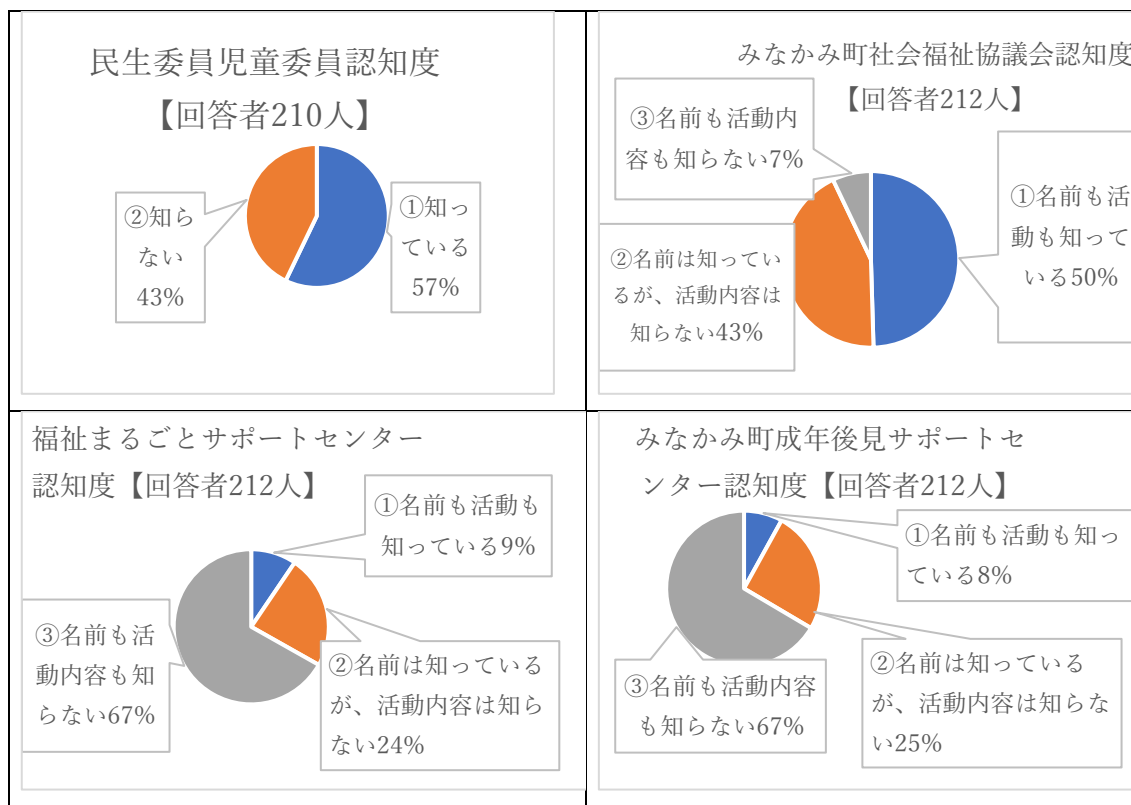
⑩災害時などの助け合い	68人	⑭カメラ写真	9人
⑯話し相手	65人	⑨絵画	7人
⑪掃除片付け	55人	⑫電化製品取扱	7人
⑦園芸畑仕事	45人	⑩生け花フラワーアレンジメント	6人
②運動・体操	25人	①ダンス踊り	5人
⑬スマホPC操作	22人	⑤囲碁将棋	5人
⑰子どもとの関わり	18人	⑱英会話など	3人
③歌・楽器演奏	15人	④俳句短歌詩吟	2人
⑥日曜大工	15人	⑮WEB制作	0人
⑱ペットの世話	15人	⑳その他	12人
⑧手芸陶芸工作	11人		

その他の回答は以下のとおりです。

- ・特になし
- ・3月まででこちらを去るため、なんともいえません。
- ・なし
- ・自信を持ってこれというものがない
- ・特になし
- ・81歳ではボランティア活動などは無理です。
- ・なし
- ・分からない
- ・ペーパークラフト
- ・草刈り

(12) 福祉制度等の認知度

社会福祉協議会や民生委員については一定の認知があるものの、各種相談支援機関については認知度が十分とは言えない状況が見られる。



6. 考察

地域の課題では高齢者の生活支援や社会参加、災害時の安否確認など高齢社会に関する課題をあげる方が多い。地域で困りごとを抱えている人に支援をしたいかどうかには、とても思うと思う人が73%存在している。また、20%を超える人が日常的な支援である、雪かきや買物、ごみ出しなどの支援が可能であるとも回答している。

一方で相談や助けが必要なときは、家族、親族が69%、知人・友人が27%と回答しているが、近所の人と回答した人は13%にとどまっている。このことから、「支援する」には積極的だが、「助けて、支援して」というには抵抗があるという住民意識があることがうかがえる。

これらを踏まえると、支援が必要なのに「声を出さない」人の早期の把握と、それに対する住民の参加をつなげる仕組みを強化すること必要であり、対策を進めることとしたい。

自由記述の記載は以下のとおりです。

- ・このアンケートを取る意味が分からない。社会福祉協議会いらなと思います。
- ・特に事項無し
- ・過疎化 減少の一途に不安がある。

・部落のお祭り事で、飲んだり、食べたりすることは辞めてもらいたいと思います。準備をするのも女の人は大変です。仕事をしているので順番に廻ってきても困りますね。コロナ・インフルと感染の心配もあり道路愛護ぐらいで辞めてもらいたいと思います。年を重ねることに、負担を感じます。

- ・運転免許返納後の交通手段（買物・病院等）の確保
- ・特にありません。

・これから、みなかみ町は、高齢化社会を迎えます。その時、最も重要なことは健康寿命を延ばす事だと思います。

・困りごとがあれば自ら役場に相談に行くので、民生委員の方が自宅に訪ねてくるのを控えてほしい。プライバシーを守りたい。

- ・特にない

・いつもお世話になっています。うちの近所の一人暮らしの方も社協のいろいろなサービスを利用しているそうです。今後ともどうぞよろしくお願いします。

・今後は、益々一人暮らしが増えるのでリモートを使ってコミュニケーションをとれるお茶会ミーティングなど必要なのでは、人件費も少なくすむ

- ・いつも大変お世話になっています。ありがとうございます。

・助けが必要なときにどこに相談したら良いか、それぞれのサポートセンター等の活動を詳しく教えてほしい。

- ・各サポートセンター等の内容を町民に分かるようにしてください。

困っている人がいればできる限り手伝いたいと②思う。協力したい。

・今後更に社協の重要性が増して来ています。又地位での共助、助け合いが必要不可欠です。そして移住者に来ていただき、若者のエネルギーに寄り活性化させたいです。そう想いじじいの力を発揮して若者たちと交流して祈ります。

- ・近所に空き屋があるが持ち主が管理しておらず問題がある。野良猫が子を産み増える。

・母は、一人暮らしですが健康であるためデイサービスは利用できないと、以前言われたそうです。家に閉じこもりがちなので足腰が弱くなっています。どんな人がサービスを受けられるのか、分かったらいいなと思います。

- ・特になし

・私は町外から嫁いで、もう40年以上になります。がとにかく感じるのが、地元の人のつながりが強いことです。何か集まりごとがあるとき、今もアウエー感があります。近所に同世代の人かいないと言うこともあります。・・・もうこの年になるとわざわざ気を遣って話しかけなくても思ってしまう。あえて一つ感じたことですが12月に一人暮らしの方に手作り弁当を届けるというのも今この時代にそぐわない気がします。

・熊対策をお願いしたい。自分の家の付近を散歩する高齢者の方との会話の中でよく出てくる。

・会長に早く辞めてもらいたい。

・スマートフォンの使い方をおしえてもらいたい。

・社協の義援金募金は不要（会計報告もないので何に使用されているか不明なので）

・両親が 42 年前に離婚してから今もずっと悪口を言われ続けている。「離婚した家は相手にしない」と真庭地区の方々から家の中ののぞき、お風呂ののぞき、下着泥棒など嫌がらせが子どもの頃からあり、町や地区の行事などの参加は不可能です。作り話や悪口を言われるだけ。

・少子高齢化による労働不足が進む中、若者にボランティアを募るだけでは限界があると感じています。多くの若者は仕事のため町外へ出ており、町内だけで担い手を確保するのは難しいのが現状です。外からでも若者が関わられるような仕事や職業支援、介護・支援を業務やイベントとして仕組み化することで、人を呼び込み、継続的な支援につながると思います。アンケートは紙でなく電子でお願いします。

・お互い様なので地域で助け合って暮らしています。

一人で生活している高齢者をよく見かけてとても大変そうなので、そういう人にも制度があることを知ってもらいたいと思う。買物も身の回りに事も大変そうだなと感じます。

・新治地区に関する。のぞみ館の再開、デイサービスの再開を是非お願いしたい。

・ボランティアをする方の愛の心と受ける方の感謝の心、双方をつなぐコーディネート力が課題と思いますので、社会福祉協議会の活躍に期待しています。

・特に思い当たりません。すいません

・ボランティア活動の時間をつくるのにたいへんだ

・朝、昼、夕方に以前のように音楽をならしてください。

・湯原の街は、ずいぶん昔より淋しくなっていました。どこに原因があるのでしょうか？もっといろいろな原因を考えてみなかみの未来の発展のために検討した方が良いと思います。

・働く 60 代、町のいろいろなことに参加することができない。社会福祉協議会の活動内容を知らない、だけど金は取られる、自分たちで集めるならいいが寄附が当たり前 おかしい。

・高齢者が自ら買物や病院へ行く手助けを。家族以外の手助けがあると、車の運転が辞められると思います。（家族が手伝うのを嫌がる＝迷惑をかけたくないという気持ち）

・高齢世帯が増えて若い世帯がほとんど無い。車の運転ができなくなったときの生活が不安。

・商業施設の充実化

令和8年3月
社会福祉法人みなかみ町社会福祉協議会
生活困窮者支援等のための地域づくり事業